



赤江地域自治区 地域協議会だより

第50号 令和5年6月
発行 地域協議会事務局
宮崎市赤江地域センター
電話 51-4274

令和5年5月18日 令和5年度第1回赤江地域自治区地域協議会が開催されました

異動情報

新委員 : 岡田栄子委員 (赤江東地区民生委員児童委員協議会)
事務局 : 地域センター長 内田尚子、地域センター長補佐 大浦亨



■審議事項

★第1号議案 令和4年度赤江地域まちづくり推進委員会 事業報告及び収支決算報告

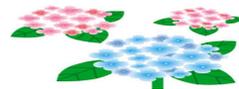
分野	事業名	予算額	決算額	差額
あんぜん	青パト活動支援、防犯活動事業	200,000	126,910	-73,090
	安全に関する訓練、講座事業	130,000	129,624	-376
	災害救助資機材等設置事業	40,000	36,229	-3,771
つなごう	子育て応援事業	50,000	31,618	-18,382
環境	あかえ散策ふれあい事業	150,000	34,966	-115,034
文化	あかえ寺子屋事業	250,000	111,845	-138,155
広報	広報誌「人・夢・あかえ」発行事業	600,000	763,321	163,321
	カレンダーを作ろう事業	260,000	238,569	-21,431
	地域掲示板設置事業	400,000	381,596	-18,404
みんな	防災かまどベンチ事業	300,000	288,901	-11,099
	食でつなぐわくわく事業	170,000	71,996	-98,004
	熱気球事業	730,000	503,595	-226,405
	番屋跡保存に向けた調査事業	540,000	58,505	-481,495
他	まちづくり活動支援事業	1,180,000	1,095,361	-84,639
	合計	5,000,000	3,873,036	-1,126,964

5年度
へ繰越

★第2号議案 令和5年度赤江地域まちづくり推進委員会 事業計画及び収支予算書(変更)

分野	事業名	予算額	事業内容
あんぜん	青パト活動支援、防犯活動事業	180,000	青色パトロール隊活動支援、防犯活動実施
	安全に関する訓練、講座事業	130,000	AED講習をはじめとする「救命講座」実施
	災害救助資機材等設置事業	110,000	地域内3小学校、2中学校に設置の防災資機材の点検
つなごう	花でつなごう西田橋事業	80,000	西田橋を花で飾ろう。近隣自治会、まち推、ボランティア
環境	みんなで学ぼうやさしい環境事業	90,000	環境啓発で、エコクリーンプラザ、市下水道処理施設見学
文化	あかえ寺子屋事業	250,000	八重川の動植物の見学。「音楽と茶の湯」を開催
	赤江の歴史案内板事業	350,000	地域内の歴史の案内板を設置～松井神社、両国橋
広報	広報誌「人・夢・あかえ」発行事業	620,000	まちづくり推進委員会の事業内容の広報
	カレンダーを作ろう事業	270,000	「残したい赤江の風景」をテーマにカレンダーを作成
	地域掲示板設置事業	470,000	まちづくりの事業や自治会の活動を広報するため掲示板
みんな	熱気球から地域を眺めよう事業	480,000	地域の3小学校の6年生を対象に熱気球を体験する
	番屋跡保存に向けた調査事業	450,000	古い地域の番屋の建物の歴史的価値を調査する
他	まちづくり活動支援事業	1,200,000	事務局のPC、複合機、AED、車両のリース料、消耗品
	合計	4,680,000	

審議の結果 第1号議案、第2号議案を承認されました。会議で出された意見等については、地域協議会の意見書として、赤江地域まちづくり推進委員会に提出いたしました。



★第3号議案 「地域魅力発信プランの実現率」についての委員の評価結果をまとめました。

- ① 地域魅力発信プランは、地域の各団体で共有されているか B 評価
 - ② 地域魅力発信プランに設定した目標の達成に向け、地域の各種団体が主体的に、あるいは連携して取り組んでいるか B 評価
 - ③ 地域魅力発信プランは、地域の実情にあった内容となっているか B 評価
 - ④ ①から③の評価を踏まえ、地域魅力発信プランの計画期間に照らし、設定した目標の達成に向け、順調に進捗しているか B 評価
- 以上の結果となり、地域協議会で承認されましたので、宮崎市に報告致しました。



◆ 赤江地域の課題「高齢者対策と地域コミュニティの連携を図る方法について」の協議 ◆

高齢者対策についてグループ協議を実施しました。高齢者問題は多岐にわたるので、今回は「生活支援」に絞って協議が行われました。

協議の主な内容



① 高齢者の生活支援について

- 生活支援についても幅広い内容になり、問題を絞っていくことがなかなか難しい現状がある。自治会も会員数が減少し、高齢化も進んでおり地域の人が見守ることも限界に来ているように思う。誰がどんなことに困っているのかが拾えていない。
- 困っている人にどのような支援を行えばよいのかがみえず、地域の人が自分を犠牲にして見守っているような状況になっているようである。地域の団体の方と意見を交換したり、情報共有が必要である。
- 月見ヶ丘地域においては、自治会というより班の中でグループを作って、困りごとに対応していることでうまくいっている所もある。
- 自治会、民生委員、福祉協力員の団体の中での情報共有が必要である。地域の中で、地域包括支援センターの役割は非常に大きい。チラシを配布したり災害避難についても大切であるが、訪問しても鍵を開けてくれないとか、詐欺問題もあり電話にも出ない、避難はしないとされる方もいる。安否確認も含めて、いろいろな団体との連携が必要だと感じる。
- まず、玄関を開けていただくことから始まるので、いただき物をおすそ分けしたり、日頃からのお付き合いがきっかけになるのではないかな。

赤江地域まちづくり推進委員会の事業や自治会活動に参加しましょう

地域協議会は傍聴できます。傍聴希望の方は事前に赤江地域センターに電話で申込みをお願いいたします



新委員 岡田 栄子委員への辞令交付の様子
(左が岡田委員、右が内田地域センター長)